

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 13 日

所属	商経学部	職名	教授	氏 名	荒川敏彦
研究課題	マックス・ヴェーバー研究				
研究キーワード	マックス・ヴェーバー	当年度計画に対する達成度		1.目標を超える研究の進展・成果を達成した	
関連するSDGs項目	8. 働きがいも経済成長も	10. 人や国の不平等をなくそう	16. 平和と公正をすべての人に	該当なし	

1. 研究成果の概要

①マックス・ヴェーバーの『宗教的ゲマインシャフト』草稿に関する論文（目次問題、アステリスク問題、現世順応的宗教の第一のものと第二のものにかんする問題について）を3本発表した。

②マックス・ヴェーバーのカリスマ概念について、その最も初期の使用例が『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』およびエルゼ・ヤッフェ・リヒトホーフエン宛書簡にあることを指摘した上で、その文脈と概念使用の含意を考察した論文を2本発表した（ドイツ敬虔主義のツィンツェンドルフとの関連および人格的カリスマの最初の例としてのオットー・グロースへの言及）。

③西洋中近世の労働観について、近世以前の中世ドイツ神秘主義者の代表的人物であるマイスター・エックハルトおよびヨハネス・タウラーの説教における労働観を抽出して考察するとともに、近世ドイツおよびオランダで刊行された職人版画における女性像を分析した論文を発表した。

④遠藤隆吉の「家学の書」について「共知」の視点からの考察を報告した。

⑤本学付属図書館所蔵貴重書の一冊であるタリエンテ『商業算術』(Tagliente, Libro de Abbaco.) の複式簿記に関する記述について、マックス・ヴェーバーの『中世商事会社史』を手がかりに、複式簿記的思考がもつ世界的・資本主義的意義を考察し報告した。

2. 著書・論文・学会発表等

（できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

【著書・論文（査読なし）】

荒川敏彦「マックス・ヴェーバー『宗教的ゲマインシャフト』草稿の基礎的研究 (2)——二重のテキスト問題

①目次問題」『千葉商大論叢』第62巻第1号、2024年7月。

荒川敏彦「マックス・ヴェーバーにおけるカリスマ概念の初期用例（上）——『プロ倫』におけるツィンツェンドルフと現世拒否のパラドックス」『千葉商大紀要』第62巻第1号、2024年7月。

荒川敏彦「マックス・ヴェーバー『宗教的ゲマインシャフト』草稿の基礎的研究 (3)——二重のテキスト問題

②散逸問題：アステリスク問題」『千葉商大論叢』第62巻第2号、2024年11月。

荒川敏彦「マックス・ヴェーバーにおけるカリスマ概念の初期用例（下）——人格的カリスマとしてのオットー・グロース」『千葉商大紀要』第62巻第2号、2024年11月。

荒川敏彦「マックス・ヴェーバー『宗教的ゲマインシャフト』草稿の基礎的研究 (4)——二重のテキスト問題

②散逸問題：現世順応的な宗教の第一と第二」『千葉商大論叢』第62巻第3号、2025年3月。

荒川敏彦「職業召命観による生の一元的再編とその陥穽——ルカ伝「マルタとマリア」論および近世職人図を手がかりに」『国府台経済研究』第34巻、2025年3月。

【学会発表等】

荒川敏彦、貴重書トークイベント報告『『家学の書』を語る』千葉商科大学附属図書館、2024 年 6 月。

荒川敏彦、貴重書トークイベント報告「マックス・ヴェーバーから考える簿記と資本主義と資本主義の精神——簿記的思考の歴史的意義」千葉商科大学附属図書館、2024 年 11 月。

3. 主な経費

主として書籍購入にあてた。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

遠藤隆吉研究所研究プロジェクト「遠藤隆吉の社会学史的位置に関する基礎的研究——日本社会学草創期の一断面」（研究代表者）

（本文は2 ページ以内にまとめること）